

第39回日野市ユニバーサルデザインまちづくり推進協議会
議事録

令和8年1月27日(火)
14:00~16:00
日野市民会館 小ホール

■ 出席者

1. 日野市ユニバーサルデザインまちづくり推進協議会

会長 小根山裕之(東京都立大学都市環境学部都市基盤環境コース教授)

副会長 橘弘志(実践女子大学生生活科学部生活環境学科教授)

委員 有山一博(日野市聴覚障害者協会)

富田正俊(日野市視覚障害者協会)

富張理子(知的障害者相談員)

齊藤晶子(市民サポートセンター日野)

藤田博文(自立生活センター日野)

矢野郁子(日野市シニアクラブ連合会)

戸田真以子(公募市民)

乗附旭子(公募市民)

土田みゆき(公募市民)

遠藤幹夫(日野市商工会)

日野市 浅川浩二(まちづくり部長)

萩原美和子(健康福祉部長)

岡田正和(企画部長)

2. 事務局 まちづくり部都市計画課交通政策係

3. 傍聴者 1名

■ 次第

1. 開会

2. 報告事項

(1) 日野市ユニバーサルデザイン推進条例施行規則の改正

(2) 日野市ユニバーサルデザイン推進功労者表彰の候補者募集

(3) 第三次日野市バリアフリー特定事業計画進行管理会議

(4) 幹線市道Ⅱ-48号線バリアフリー工事

3. 今後の予定

4. 閉会

■ 配布資料

① 次第

② 資料1 パワーポイントを印刷したもの

③ 資料2 名簿

■ 議事要旨

・ 会長及び副会長の選出

事務局: 前回協議会までの委員が令和 7 年 12 月 31 日での任期満了に伴い、日野市ユニバーサルデザイン推進条例施行規則第 7 条第 1 項に基づき、会長及び副会長を選出する。

委員: 専門的な知識・知見から、中立的な立場でこれまで協議会を進行していただき、また、高齢者・障害者の社会参加の促進にご尽力されてきた小根山委員、橘委員に会長、副会長を引き続きお願いしたい。

事務局: 小根山委員を会長、橘委員を副会長に選出することに関して意見を伺う。

委員: (意見無し)

事務局: 小根山委員を会長、橘委員を副会長に決定する。

1. 開会

2. 報告事項

(1) 日野市ユニバーサルデザイン推進条例施行規則の改正

事務局: (説明)

委員: トイレの整備基準が変わり、現在よりも車椅子使用者用の便房が増える認識だが、小規模階を有する建築物では、1,000 m²に達する毎に 1 箇所以上設置なので、すべての階に車椅子使用者用の便房が設置されるわけではないことが残念である。

トイレの名称について、以前の協議会でも話したが、「だれでもトイレ」という名称が一時期多く使われ、「だれでも」の範囲が広すぎるのが原因で、本当に必要としている人がすぐに使用できないといったことがあるため、注意してもらいたい。

また、劇場等のバリアフリー基準の見直しについて、車椅子使用者用のスペースを一定数設けるとのことだが、劇場の中に設ける位置や、隣に介助者のスペースを設けることの基準はあるか。

事務局: 今回の説明では遵守基準の内容を説明したが、整備基準にはより多くのユニバーサルデザイン設備を整備するための努力基準がある。市の関連施設は特に、努力基準の「望ましい整備」の部分まで整備するよう、昨年 11 月に開催した進行管理会議において説明を行った。

トイレの名称については、現在は「だれでも」という言葉は使わず、車椅子使用者等のピクトグラムで表示するよう指導している。

また、劇場の車椅子使用者用のスペースについては、遵守基準には位置の明示や介助者スペース設置の記載がないが、努力基準や東京都の施設整備マニュアルに参考図等の記載があるため、これらの内容に基づき指導していく。

委員: 先日、市民会館のイベントに車椅子使用者と介助者の参加申込をした際、車椅子使用者のスペースと別で介助者のための一般の席を確保するとの話をされた。車椅子使用者の隣接する部分でなければ緊急時に対応が困難であると伝え、その結果、車椅子使用者用のスペースに一番近い席を確保してもらえることとなった。今後のイベントでの参加方法や、同様の方から複数申込があった際の対応について、検討してもらいたい。

事務局: 運営側に対していただいた生の声を伝え、改善を図れるよう検討してもらう。

委員: 先ほどの「だれでもトイレ」の名称について、個人的には良いと思っている。LGBTQ のような性的マイノリティの方々に対して「だれもが使えるトイレ」という意味はとても優しい印象があった。

日野市:「だれでもトイレ」として表示した際、「だれでも」という言葉を勘違いして使用する健常者が多くいる現状があるため、誤解のないネーミングにする必要がある。

委員:駐車場の車椅子使用者用の台数の基準が改正されたとのことだが、車椅子使用者用スペースのサイズの基準は記載があるか。

事務局:車椅子使用者用スペースのサイズについて、基準に幅の規定はあり、奥行きの規定はない。ただし、マニュアルの「望ましい整備」の中で奥行きについて記載があるため、当課では今後、市の関連施設では特に、「望ましい整備」まで指導していく。

委員:トイレについての基準は、障害者用ではなく車椅子使用者用のトイレという記載なのか。

事務局:今回の規則改正は、車椅子使用者用便房を設けるという記載となっているが、先ほどの「だれでもトイレ」という名称についての意見にもあったとおり、障害者優先のトイレといったイメージを持ってもらえれば良い。

委員:幼児期の息子が男子トイレを使用する際、母親として 1 人で行かせることが心配だったが、「だれでもトイレ」と表示されていたことで、一緒に入ることができた経験がある。また、友人に車椅子は使用していない重度の知的障害がある子の母親がいるが、トイレに車椅子使用者の表示がされると、入りづらい印象がある。設備が整備されていないトイレでは使用することのできない車椅子使用者の方々にとって、使いたいときに使えないことが発生してしまうことは理解しているが、「だれもが使えるトイレ」のように様々な方が安心して使用できるような表現をしてもらいたい。

会長:トイレの名称の問題はとても重要に思う。事務局では、今後も引き続き検討をお願いしたい。

委員:車椅子使用者用の駐車スペースについて、観光地などではこの駐車スペースが空いていない状況が多くある。他県に出掛けた際、車椅子使用者用駐車スペースに駐車した車内に許可証が置かれていた。設備を本当に必要としている人のために、このような制度があることを紹介する。

事務局:制度について参考にさせてもらう。

委員:「パーキング・パーミット制度」という制度のことで、東京都では、現状で導入されていない。

(2) 日野市ユニバーサルデザイン推進功労者表彰の候補者募集

事務局:(説明)

委員:市公式 LINE をよく活用して情報を入手しているが、昨年 4 月にこの内容の案内が LINE にあった際、テキストからリンク先の市 HP にアクセスして情報を得る必要があった。令和 8 年度実施の際には、LINE に画像データでチラシを掲載できれば、より視覚的に周知できると考える。

会長:令和 6 年度実施の際に応募が無かったことにより、以前は形式的だったチラシについて、人の目につきやすいデザインに変更して令和 7 年度実施したが、結果は応募なしということで残念に思う。LINE にチラシを貼付する提案があったが、その他応募してもらうための意見を伺いたい。

委員:以前、候補者に推薦をしようとした団体があったが、市の関連団体であったため対象にならないといったことがあった。また、募集要項を確認するとハードルが高い印象を受ける。

委員:チラシについて、とても立派でかわいいデザインだが、「ユニバーサルデザイン」や「バリアフリー」といった横文字が多い印象がある。また、「自薦・他薦を問いません」との記載があるが、自薦はほぼないと思われるので、他薦にて応募されるように切り替えてみてはどうか。

最終的にユニバーサルデザインの推進功労者を表彰することを目的とするが、まずは、チラシを軽い表現にして簡単な方法で応募できるようにする。街の方から「便利になった」「使いやすくなった」「住みやすくなった」などの声を聞かせてもらい、応募のあった内容について事務局で調査するとい

った、段階を踏んで実施する方法が良いと考える。

会 長:入り口の段階で表彰に該当する人を推薦するという方法は非常にハードルが高いので、その前段で候補になりそうな人の情報提供について幅広くアピールできると良い。様々な活動をされている人や施設では自薦はあまり考えられないと思うが、商品系では自薦もあり得ると思っている。ただし、他薦がメインになることは同感である。

委 員:表彰対象者は「顕著な功績または功労のあった個人または団体」と記載があるが、企業は対象外という認識で良いか。

事務局:企業も対象となる。

委 員:「企業」の文言も記載があれば事業者として認識すると思われるので検討いただきたい。

委 員:このチラシを目にすることが多々あるが、チラシに付いている資料が多く厚みがあり、見てみようという気持ちにならないので、気軽に持ち帰られるよう1枚で配布したほうが良い。

また、表彰の対象者に子どもも含まれるか。子どもたちが表彰されれば話題になりユニバーサルデザインの普及に繋がるため、学校などを表彰できると良い。

事務局:皆様から貴重な意見をいただき、これを反映していくことが仕事だと考えている。いただいた意見を踏まえ、チラシの見やすさや表彰のハードルなどについて改めて検討していく。

会 長:先ほど、市の関連団体のために表彰の対象外となった話があったが、市が市職員や関連団体を表彰することはなかなか難しいこともあると思う一方で、対象として良い場合もあるのではないかと考える。そのことも含めて検討できると良い。

(3) 第三次日野市バリアフリー特定事業計画進行管理会議

事務局:(説明)

会 長:事務局からの説明にもあったとおり、進行管理会議には私と橘副会長が出席し、会議の進行をさせてもらった。内容については、令和6年度に実施した事業について事業者が報告する中で色々な意見交換も行われ、単に状況報告するだけでなく他の事業者が色々な気づきや、あるいは整備に向けてきっかけになると良いと思っている。

課題としては、市の担当部署やその他の官公庁、あるいは交通事業者の出席率は高かったと認識しているが、民間事業者の出席が多くないという点である。民間事業者にいかに意義を感じ取ってもらい出席してもらうか、また、欠席の事業者に対して成果や情報をフィードバックしていくことが重要に思う。また、来年度で計画の前期間が終了となるので、できる限り計画に沿って進行管理をしていく必要がある。

副会長:私も出席させてもらった中で、以前と比べて、それぞれの取り組みに対する意見交換の機会があり、どのような問題があっただのように解決した、また、その結果どうだったかなどのお話ができるようになってきたと感じた。民間事業者の出席に関しては、事業が進捗できていないから出席しづらいといったような考えがあるならば、悩みや知恵を共有することで得られるものがあるなど伝え、気軽に出席してもらい前向きな意見交換ができると、より建設的になっていくと思う。

ユニバーサルデザインの推進功労者の表彰についても、事業が進捗したら表彰するなど、ユニバーサルデザインに前向きになっている事業者に対して次々と表彰していければ良いと考える。ユニバーサルデザインという言葉がまだ浸透していないということであれば、より多く表彰して、それを周知していくことを考えても良いと思う。

委 員:特定事業計画の進捗率が上がっていくことを知ると非常にうれしく感じるが、我々市民が自分

の肌で感じる部分というのは、やはり自分たちの生活空間が良くなっているところで感じていくものだと思っている。

以前、道路の不具合があり、それを投稿できる市のシステムがあることですぐに市に対応してもらった。このシステムを高齢の方に紹介したところ、投稿に対してすぐに対応してもらい本当に感謝しているということがあった。このようなシステムを多くの方々に知ってもらい、自分の身近なところが改善されていく、使いやすくなっていくことをもっと感じてもらえると良いと思う。

しかしながら、私が投稿して応急処置の対応をもらった道路の舗装の穴について、雨や風により埋めた部分が飛んでしまい、再び穴ができてしまうことがあった。市として対応した箇所を再度確認するような機会を設けてもらえると良い。

市内の色々な場所が使いやすくなることは、大きな特定事業だけではないと思っているので、我々市民も発信し、協力しながらより良い日野市になっていけば良いと考える。

委員:以前と比べて事業が大きく進んでいることがわかり良かった。高幡不動地域に案内板のようなものがあるが、古くなりよく見えなくなっている。駐車場や駐輪場を探す際に必要なため、新しいものに替えてもらいたいと思っているので、このようなときに積極的に市に連絡していきたい。市にすべてお任せするのではなく、お互いに情報提供していくことが必要だと感じた。

会長:委員の発言を伺い、進行管理会議を現場に近い場所で開催して現場を見学する機会を設けることや、あるいは進行管理会議とは別途で現場見学会を実施することで事業者の方々に気づいてもらうような方法も良いと考える。

事務局:事業進捗の数字だけでなく、市民がどう感じているか、それに対して市や事業者がどう感じ取るかという現場感を大切にしていきたいと思った。令和8年度で計画の前期間が終了となるが、これまでの話を聞いて、さらに引き締めて取り組んでいきたい。

(4) 幹線市道Ⅱ-48号線バリアフリー工事

事務局:(説明)

委員:市役所駐車場前の交差点の改良について、桜並木の部分を少し削って横断歩道を設けるとのことだが、どの程度削るのか。中央公園は桜がきれいで、春になると花見をする方が大変多いので、桜の木がどうなるか気になった。

事務局:植樹帯にある一番交差点寄りの桜の手前までを改良することになり、桜の木を伐採することはない。ここに歩行者用の交通島を設置し、駐車場側から市役所側に横断歩道で渡れるようにする。

委員:改良後の道路について、横断歩道の部分は歩車道の境界に段差のないバリアフリーブロックが設置され、視覚障害の方々も安全に渡れるという理解で良いか。

事務局:その理解で良い。

委員:このバリアフリーブロックは東京都の中でもまだ設置のないエリアが多く、日野市が率先して設置してもらえることに感謝している。

3. 今後の予定

4. 閉会